安全衛生管理計画作成の手引き

１．はじめに

 事業の運営に際しての（プランニング）の重要性については他言を要するまでもなく、各企業におかれては営業計画、生産計画等何らかの形で計画を有しているものと思われます。

 安全衛生管理計画もこれらの経営に関する計画と同様の手法で作成し得るものであり、一般に、（１）現状の把握、分析、（２）問題点の摘出、（３）目標の設定、（４）具体的実施計画の手順で作成することになります。

 計画書の形式（書式）は企業独自のものを作成することが望ましいと考えられますが、一応参考例として本書式を示したものです。

２．記載要領

（１）１．について

 イ．死傷件数は、負傷と職業性疾病（中毒）の件数で、概ね過去３ヶ年分について記入します。

ロ．労働損失日数は、休業日数×300/365で算定し、死亡、障害等級該当災害については、次のとおりです。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 身体障害等級 | 死亡 | １～３ | ４ | ５ | ６ | ７ | ８ | ９ | １０ | １１ | １２ | １３ | １４ |
| 労働損失日数 | 7500 | 7500 | 5500 | 4000 | 3000 | 2200 | 1500 | 1000 | 600 | 400 | 200 | 100 | 50 |

ハ．度数率＝死傷者件数／延労働時間数×1,000,000（死傷件数には不休災害を含まない）

 強度率＝労働損失日数／延労働時間数×1,000で計算します。

ニ．「職業性疾病の発生状況」は過去3年の間に発生したものについて、例えば、令和２年有機溶剤中毒（休業4日）1件発生と記入します。

ホ．「無災害継続状況」は、本計画作成時点において継続中の無災害（不休災害を除く）の状況を記入します。

（２）２．について

1. 一般健診の受診者数は、年２回実施している場合は両者の合計数を記入します。

ロ．「特殊健診」には、法定の有害業務に係わるもの（例えば有機溶剤健診等）と行政指導によ

 るもの（例えば振動健診等）があります。

（３）３．について

イ．リスクアセスメントは、①事業場のあらゆる危険有害要因を洗い出し、②それらのリスクの大きさを見積もり、評価し、③労働者保護の観点から容認できないものを個別具体的に明らかにすることを体系的に進める手法です。

　　事業場における取組み状況について、

**「実施中」**とは、事業場全体で既に実施している場合。

**「実施準備中」**とは、実施に向けた具体的な準備を行っている場合など。

**「実施予定」**とは、事業場内で実施について検討している場合。

**「予定なし」**とは、事業場内において検討を行っていない場合、あるいは実施しないことを決定した場合。

現在の状況について、該当するところに○印を記入してください。

ロ．化学物質のリスクアセスメントとは化学物質を取り扱う事業場が対象となります。取扱いの有無の該当する方に○印を記入してください。（取扱いが無い場合は下段の取組状況欄の記入は不要です。）事業場における導入状況については、上記リスクアセスメントの取組状況の記載要領を参考にして、該当するところに○印を記入してください。

ハ．労働安全衛生マネジメントシステムは、①計画（Plan）、②実施（Do）、③評価（Check）、④改善（Act）のサイクルを適切に実施することで、安全衛生水準の段階的向上させる安全衛生管理の仕組みです。

　　事業場における導入状況については、上記リスクアセスメントの取組状況の記載要領を参考にして、該当するところに○印を記入してください。

ニ．**「全面禁煙」**とは、建物や車両内全体を常に禁煙とすることをいいます。

　 **「空間分煙」**とは、喫煙室でのみ喫煙を認め喫煙室以外の場所を禁煙とすることをいいます。

　 **「実施準備中」「実施予定」「予定なし」**については、上記リスクアセスメントの取組状況の記載要領を参考にして、該当するところに○印を記入してください。

（４）４．について

 イ．「安全衛生管理に関する基本方針」には、経営者の労働災害防止についての理念や基本姿勢等、訓示的な言葉を記入します。

 また、全社的なスローガンを定める場合はそれも記入します。

 ロ．「災害減少目標」は、具体的な件数や災害率の減少目標値を定め、例えば、死亡、重篤災害はゼロ、休業災害の５０％減を目標とする等と記入します。

 なお、前年の発生件数が極めて少ない場合は「無災害を目標とする」等の表現となります。